

じっくり考え、
しっかり話し合い、
きちんと伝える。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

いつ「命の危険が迫った状態」になるかは誰にもわかりません。明日かもしれないし、10年後かもしれない。けれども、人間は生まれた瞬間にすでに「死」に向かって生きていることは明白です。現在病気を患っている人も、そうでない人も、いつか迎える自身の最期について、誰もが考える必要があります。

この記事を読んで、ぜひ皆さんに考えてほしい。自身の人生について。最期までどう生きるのか。そして、それを伝えてほしい。あなたの大切な人、あなたの希望を叶えてくれる人に。